

3 地域への理解を深める、地域に密着した図書館

図書館は、地域の人々が郷土の歴史や自分たちの暮らしについて考え、学ぶ場でもあります。郷土資料の収集や紹介は、地域に密着した図書館だからこそ可能であり、図書館の担う重大な務めです。地域の様々な情報や資料を保存して活用してもらうには、いろいろな工夫や配慮をしなくてはなりません。

本市の図書館には、豊橋市図書館の前身である「羽田八幡宮文庫※8」を始め、約20,000冊の和装本や「橋良文庫※9」「丸山薫文庫※10」など、地方色豊かな郷土資料が多く所蔵されています。これら貴重な和装本の整理や保存は、これまでも計画的に進めてきましたが、今後も引き続き継続して取り組み、かけがえのない貴重な郷土資料として後世に伝えていくとともに、郷土にゆかりの深い図書資料の収集とその紹介にも引き続き努力していきます。さらに、世界中の絵本や教科書を中心にした32,000冊余の「司文庫※11」コレクションもあり、全国に誇ることができる本市の貴重な財産となっています。

こうした特色のある図書資料の収集や紹介に、今後も積極的に取り組むとともに、特別展の開催や常設展の充実、あるいは、特別なコーナーの整備などを通して多くの方々に紹介し、地域への理解と愛着を深めてもらう機会となるように努めます。

また、本市には、南米系の方々を中心に多くの外国人が生活しており、小中学校などに通う子どもたちも少なくありません。図書館でもそうした人々を対象とした

※8 羽田野敬雄・佐野蓬宇等が発起人となり、1848年(嘉永元年)設立した近代図書館の先駆といえる文庫で、閲覧室や講義室も建てられ、広く学問を志すものに公開された。蔵書内容は、国学を中心に、農書・医学・天文・語学・異国情報などとなっている。

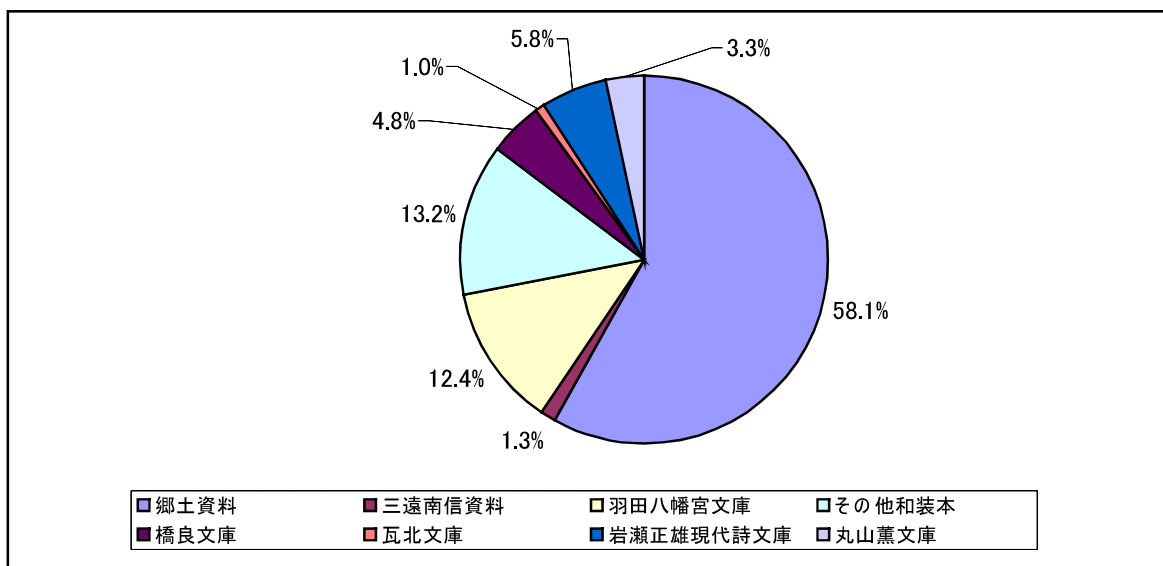
※9 文学博士であり、郷土史家であった故近藤恒次氏が永年にわたり収集したもので、小栗風葉・菅江真澄・渡辺崋山に関する資料も所蔵する文庫である。

※10 現代詩人、故丸山薫氏が所蔵していた図書で、2003年(平成15年)に設立したもので、氏の業績を永く顕彰するため、1994年(平成6年)から優れた現代詩集を全国公募して表彰する「丸山薫賞」の応募作品も含まれている。

※11 故司忠氏が文化振興のため、寄贈された洋書中心の貴重なコレクションで、1974年(昭和49年)に開設され、各種図鑑類のほか英文の小説や写真集などもそろっている。

図書資料を整備していくとともに、特に、子どもたちの読書については、学校図書館との連携のもとに資料を整備して活用の促進を図ります。

表6 郷土資料等の主な内容



単位: 冊

分類	郷土資料		和装本資料		歴史資料		現代詩資料	
	郷土資料	三遠南信資料	羽田八幡宮文庫	その他	橋良文庫	瓦北文庫	岩瀬正雄現代詩文庫	丸山薫文庫
蔵書冊数	44,194	1,020	9,607	10,234	3,696	752	4,464	2,568

(平成17年3月末日現在)

(豊橋市図書館要覧より)

4 子どもの健やかな成長を促す、子どもたちを育てる図書館

子どもは読書活動を通して、言葉を学び、感性を養い、想像力を培うなど豊かな人生を送るためのかけがえのない力を身に付けていきます。子どもの健やかな成長に、読書の果たす役割は計り知れません。こうしたことから、国は子どもの読書活動を積極的に支援するため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。また、本市においても平成16年度に「子ども読書活動推進計画」を定め、市民と行政とが共通の認識を持ち、連携・協力を深めながらこの計画の着実な推進を図ることとなりました。

図書館は、子どもが本に親しみ、本を読んだり借りたりする場であると同時に、学校図書館との連携を通して、図書館と子どもたちはつながっています。さらに、保護者を通して図書館と子どもは深い関係にあります。したがって「子どもたちを育てる図書館」にするためには、子どもと保護者と学校にどのように向かい合うか、その姿勢が問われることとなります。

子どもの頃から図書館に親しみ、気軽に利用する習慣を身に付けることで、本好きな子どもを育てるとともに、望ましい読書習慣の基礎が養われます。したがって、子どもたちには、小中学校の頃から図書館への理解を深めてもらうために、図書館や読書に興味を持つような企画を推進し、意識づけを図るよう努めます。

本市では、読書への入門期の取り組みとして、「初めての絵本との出会い※12」事業を進めています。これは、保護者等に絵本への関心と理解を深めてもらい、親子の触れ合いを図る子育ての一環としての事業で、これからも幼稚園や保育所と連携して一層の推進を図ります。

また、乳幼児から児童までを対象としたボランティアによる読み聞かせ活動も活発に行われています。こうした活動が、これからもそれぞれの地域の市民館や学校

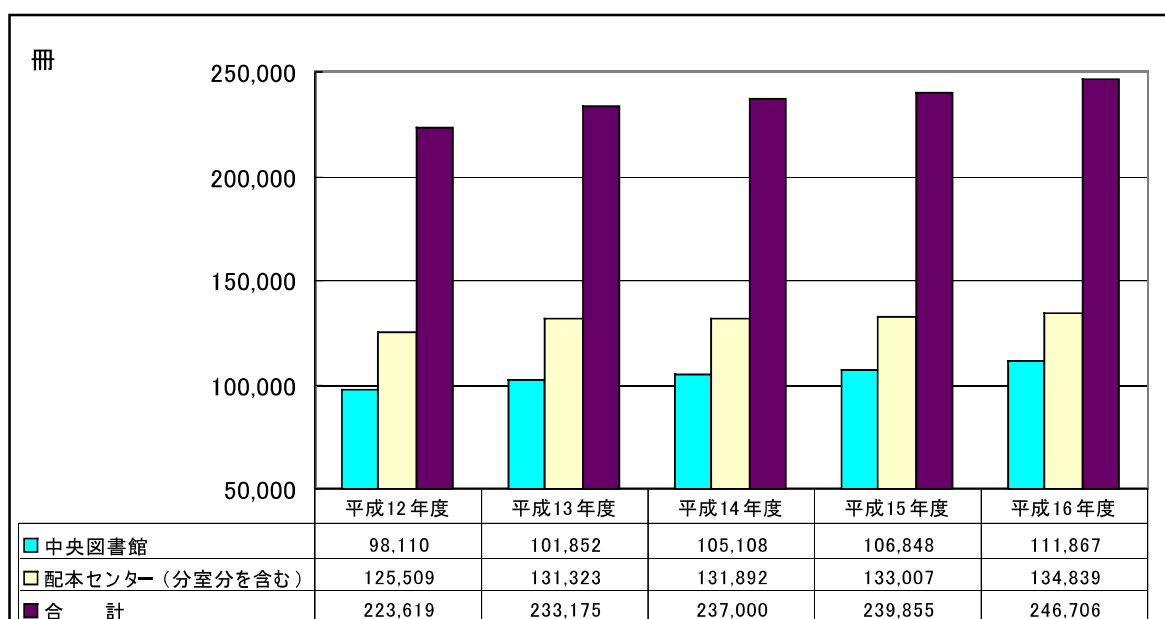
※12 絵本を介して、親子等のコミュニケーションを豊かにし、子どもの言語能力や豊かな心を育てようとする動きで、本市では4か月児健診時に絵本と絵本袋を配付している。

などで広く展開できるようにネットワークの拡大を支援していきます。

学校の図書館活動についても、公共図書館として積極的に関わるとともに、平成17年度に全ての小中学校の図書館にコンピュータが配置されましたので、今後は、学校図書館資料が各学校間と相互検索ができるように学校間の連携を図り、中央図書館とのネットワーク化も進めていきます。

さらに、学校での「調べ学習」に対応した資料整備を進めるとともに、司書教諭や学校図書館司書の研修並びに学校図書館ボランティアの養成に関わり、また、学校図書館活動の充実を支援する「学校図書館支援センター※13」を設置していきます。

表7 児童図書蔵書の推移



（豊橋市図書館要覧より）

※13 学校図書館への指導・助言、学校図書館どうしの連絡・調整にあたるもので、さらに情報の収集と物流の中心とした役割を持ち、学校図書館への様々なサービスを提供し、学校図書館の経営・運営や読書指導についての情報提供をする役割を持つ。

5 常に新しい情報を発信する、まちの文化を創り出す図書館

心豊かな生活をしたいという人々の願いに、文化活動の拠点となることで応えるのも図書館の務めです。人々は、社会生活の中で学びながら自分の生活を高めています。そのためには、常に新しくかつ的確な情報が必要です。図書館は、そうした人々の求めに応え、確かな情報を提供していかなければなりません。

また、図書館は、図書資料を利用するだけでなく、広く活字文化や情報に関わる様々な行事や催し物を通して、体験したり、学んだりする中で自分を見つめ、自分の生活を見直す場でもあります。人々のより良く生きようという意欲を高める場と考える時、図書館の果たすべき役割はますます重要です。

図書館は、時代の動きと利用者ニーズを的確にとらえ、それに応えて新しく、確かな情報を提供する必要があります。そのためには、社会動向と利用者ニーズを適時・的確に把握しなければなりません。定期的なアンケートの実施や隣接市町の図書館などと情報交換を行い、常に新しい情報の発信に努めていきます。

図書館では、これまでも「SPレコードコンサート」や「平和を求めて」展など特色ある行事や企画展を実施し、人々に学びと触れ合いの場を提供してきました。これからも、多くの人々の多様な興味・関心に応える魅力的な行事や企画展の実施に努めていきます。

また、図書館を拠点に読書サークルが活動しており、読書を通して人と人との触れ合いを深めています。こうした活動がさらに発展し、学びの輪が広がっていくように各読書サークルと連携した活動を推進していきます。

図書館は多くの人々が集い、また、新たな生きがいを求めて自主的に活動するための拠点ともなる施設です。人々が、それぞれに共通の目的を持って集まり、多様な活動が活発に展開できるように集会室や資料を提供するなど環境の整備に努めていきます。

表8 平成16年度の図書館行事

1 講演会・講座等

番号	行事名	回数	期日	参加人数
1	古文書に親しむ講座(初級)	5	4月11日～5月9日	延127人
2	子ども読書の日記念行事	2	4月18日・24日	延210人
3	赤ちゃん絵本講座	5	6月10日～7月15日	延97人
4	豊橋読書サークル活動研修会	1	6月12日	20人
5	ボランティア活動研修会(講演会)	1	6月24日	150人
6	第41回浜松・豊橋読書交歓会	1	7月2日	84人
7	夏休み子どもフェスティバル	2	7月24日・31日	延250人
8	「平和を求めて」展ビデオ上映会と戦争を語る会	1	8月1日	150人
9	古文書に親しむ講座(中級)	5	9月12日～10月10日	延97人
10	ボランティア育成講座	7	9月15日～10月27日	延177人
11	ボランティア活動研修会(視察)	1	9月15日	28人
12	第14回SPレコードコンサート	1	10月23日	100人
13	司文庫開設30周年記念講演会	1	10月30日	150人
14	豊橋文学めぐり	1	11月12日	24人
15	第8回飯田・豊橋読書会交流会	1	11月18日・19日	23人
16	第8回図書館まつり	1	12月4日・5日	延4,850人

2 資料展示会

番号	展示会名	期日	概要
1	昔の新聞展Ⅰ	6月5日～7月4日	図書館所蔵の新聞から「戦前の豊橋」の記事紹介。
2	「平和を求めて」展	8月1日～8月31日	図書館所蔵の資料の他、市民提供の資料展示し、平和を求める気運を高めるシリーズ展。
3	司文庫開設30周年記念展	10月30日～11月28日	世界3大絵本賞の「ケイト・グリーナウェイ賞」受賞・推薦作品を司文庫の中から展示。
4	三遠南信地域資料展Ⅷ	2月5日～3月6日	地域の発展と交流を図るシリーズ展で、本市に伝わる民話を展示・紹介。

(豊橋市図書館要覧より)

6 みんなの知恵と力がつくる、みんなのための図書館

図書館にとって最も大切なことは、利用者へのサービスがどれだけ実現されているかということです。言い換えれば、図書館活動が、利用者の視点でどれだけ大切にされているかということになります。利用者と図書館が意思の疎通を図り、連帯の意識を培い、その道筋を確かにすることで「みんなのための図書館」づくりの展望が開けてきます。

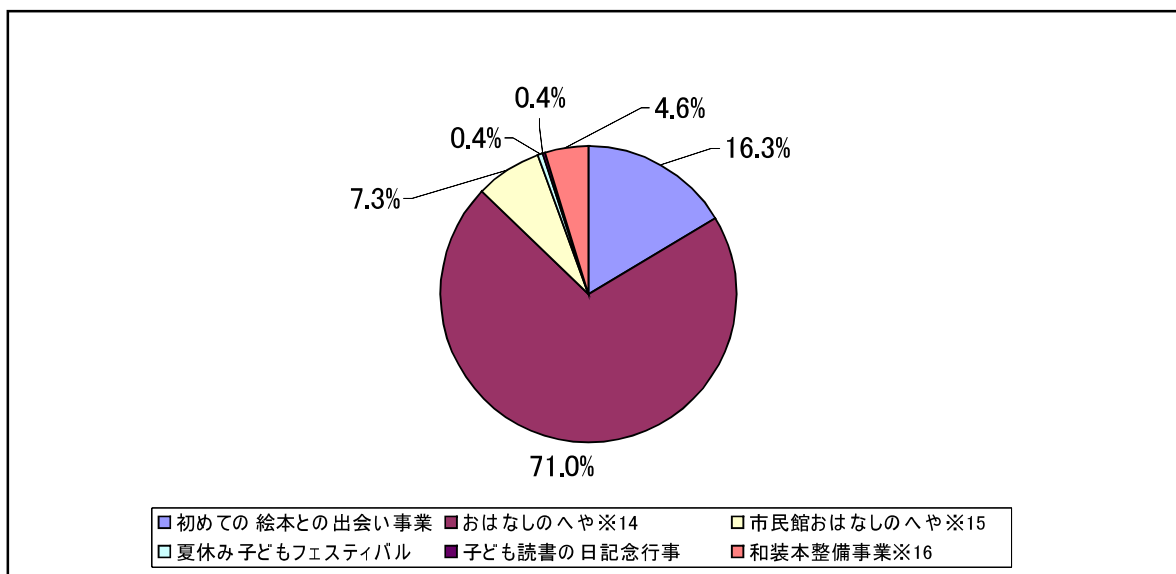
利用者の視点に立った図書館づくりを展望する時、まず問われるのは職員の意識です。これからの図書館サービスはどうあるべきか、情熱と使命感を持ってこの課題に立ち向かう職員を育成しなければなりません。そのための日常的な意識の醸成と研修に積極的に取り組んでいきます。

図書館運営については、既存の組織がその機能を十分に発揮し、多くの人の意見や声が集約できるように努めていきます。また、ボランティアや体験活動を通して、多くの人々に図書館を知ってもらうように努め、そうした人々と図書館との意見交換を行っていきます。さらに、定期的にアンケートを実施し、その結果をフィードバックし、ホームページなどで呼びかけをして利用者の声を求め、運営や活動推進に生かすように努めます。

図書館は、今までも様々な催しや企画展を実施していますが、例えば、年中行事として定着している「図書館まつり」は、利用者が主体となって進めている行事の一つです。これは、図書館を拠点に活動する様々なサークルからなる実行委員会を立ち上げて、企画から準備・運営にいたるまで半年近くをかけて利用者が主役となって行っているものです。

今後は、この「図書館まつり」のように利用者が自主性と力量を発揮できる場をさらに増やし、「みんなのための図書館」づくりに取り組んでいける体制づくりを推進していきます。

表9 平成16年度図書館事業のボランティア開催状況



催事等の内容	開催回数(回)	開催割合(%)	参加人数(人)
おはなしのへや	323	71.0	7,159
初めての絵本との出会い事業	74	16.3	10,123
市民館おはなしのへや	33	7.3	789
和装本整備事業	21	4.6	182
子ども読書の日記念行事	2	0.4	210
夏休み子どもフェスティバル	2	0.4	250

(豊橋市図書館要覧より)

※14 中央図書館他に、各種読書ボランティアによる読み聞かせ等をする読書啓発行事。

※15 市民館等において、各種ボランティアによる幼児向けの読み聞かせ等をする読書啓発行事。

※16 中央図書館所蔵の和装本について、羽田八幡宮文庫など旧蔵別に分類し、書誌を作成する作業。

図書館サービス計画目標値一覧

区 分	目 標 指 標	当 初	平成 22 年度	平成 27 年度
図書館サービスの利用促進	市民1人当たりの蔵書冊数	2.3冊	2.5冊	2.7冊
	市民1人当たりの利用冊数	3.7冊	5.2冊	5.9冊
	図書資料の回転率	1.6回	2.1回	2.2回
	図書館利用者数	58.3万人	70万人	90万人
	図書館利用満足度	73%	84%以上	86%以上
	羽田八幡宮文庫(和装本)書誌データ整備率	31%	100%	—
拠点的地区市民館の図書機能の充実	拠点的地区市民館図書室整備数	3館	9館	9館
	拠点的地区市民館コンピュータネットワーク整備数	3館	7館	13館
地域図書館の整備	地域図書館整備数(着手を含む)	1館	2館	2館
市民ボランティアとの協働	図書館ボランティア登録人数	220人	320人	320人
	地区市民館等ボランティア活動率	19%	50%	100%
授業・学習支援センターとの連携 (学校図書館支援センター)	学校貸出利用率 (学校図書館支援センター)	—	—	100%

※学校図書館支援センターは、授業・学習支援センターと名称が変更となったため、23年度より区分の名称を授業・学習支援センター変更するとともに目標指標を学校貸出利用率とした。